

1 A- a5

家族形態別にみた調理スタイルの違い —揚げ物調理を中心に—

○小川明子¹⁾、松山綾¹⁾、櫻井智香¹⁾、西原正人¹⁾

¹⁾ 日清オイリオグループ（株）

【目的】近年、少子高齢化の進展や未婚率の上昇などに伴い、“夫婦のみ”や“一人暮らし”世帯が増加している。また、共働き世帯の増加や中食市場の拡大などによって、調理の時短や簡便化傾向も強まっている。そこで本研究では、揚げ物調理を中心とした調理スタイルに関して家族形態別の比較を行い、今後の変化を予測した。

【方法】調査対象：全国の20～60代の女性。調査方法：インターネット調査。調査実施時期：2012年11月

【結果】今回の調査より、“一人暮らし”世帯は、“夫婦のみ”、“夫婦と子”世帯と比較して、特に大きな違いがあることが分かった。“一人暮らし”は、調理時間が短く、「麺料理、パスタなど」が多い結果となった。また、揚げ物調理は半数が「まったくしない」と回答したものの、そのうち7割は弁当・惣菜などの中食を食べていた。一方、どの世帯も共通して、最もよく作る料理として「炒め物」がトップとなり、その理由は「調理が簡単」が圧倒的に高くなっていた。また、揚げ物を食べるのが好きな人は、どの世帯も6～7割程度だったが、揚げ物調理が好きな人は、“一人暮らし”21%、“夫婦のみ”31%、“夫婦と子”37%と低く、揚げ物調理に対し、「調理器具の片付けが大変」などのネガティブイメージが高くなっていた。以上のことより、今後、一人暮らし世帯が増えていくことを考慮すると、調理の簡便化傾向がますます強くなることなどが推測された。